

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100545		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校・高畑		
所在地	山梨県甲府市高畑2丁目16-11		
自己評価作成日	令和 4年 1月 28日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 2月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設が開所し、5年が経ちました。開所時に職員全員で決めた「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする。」という理念に基づいて、利用者様に笑顔で安心して生活していただけるよう、また、第2の家(ホーム)になれるよう日々努力しています。コロナ禍でも花見や紅葉狩りドライブで外出を提供し、敬老会やクリスマス会の行事食で季節感を感じていただいたり、利用者様の誕生日には、好きなおやつを聞いて、一緒に手作りしたおやつで誕生会をしています。また、施設での生活が豊かな物になるよう手芸教室や書道に合唱、畑での野菜作りも行っています。コロナの感染状況をみながら、可能な範囲でご家族との面会時間を確保し、入居後も関係が継続でき、利用者様だけでなくご家族にも安心できる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○法人組織は、「小規模、地域密着、老幼一体」をキーワードとして、高齢者総合福祉事業、児童施設、医療機関等幅広い事業を展開しています。グループホームめだかの学校・高畑は、法人の地域密着型事業として、8箇所目開設した2ユニットの事業所で、地域の一人としての役割を担い、地域の清掃、河川清掃活動等、地域住民との連携を意識した取り組みを積極的に進めています。
○法人組織として、福祉専門職の養成、育成に積極的に取り組み、東南アジアから海外研修生(ベトナム人2名)を受け入れ、当事業所で研修生として支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に職員全員で決めた「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という一貫した理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあたっている。	開所時に職員全員で決めた「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という一貫した理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあたっている。	○法人理念「年寄りの底力を活かす」を基に、事業所開設当初に全職員で話し合い「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」を運営理念として掲げ、職員研修会等で理念の周知共有に努めています。また、利用者が習字で書いた理念を事業所内に掲示して、利用者や来所者へ広く周知に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設も地域の一員として地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加することで、近隣の方に声をかけていただけの関係作りが出来ている。また、地域の行事に利用者様が参加すると、席を用意していただけるなど地域の方に受け入れて頂いている。	施設も地域の一員として地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加することで、近隣の方に声をかけていただけの関係作りが出来ている。また、地域の行事に利用者様が参加すると、席を用意していただけるなど地域の方に受け入れて頂いている。	○事業所として地元自治会に加入して、地域の清掃作業行事や河川清掃作業にも職員が積極的に参加し、また、地域行事のお花見会や運動会にも利用者と職員が出かけて、地域との良好な関係性が築かれています。コロナ禍で地域行事は開催されてないようですが、回覧板等で地域の様子は把握できているとの管理者のコメントでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加すると共に、利用者様と散歩に行き、地域の方と触れ合う事で、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知って頂き、認知症等の病気の理解していただける機会にしている。	地域の行事に積極的に参加すると共に、利用者様と散歩に行き、地域の方と触れ合う事で、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知って頂き、認知症等の病気の理解していただける機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため1回のみ開催となり、それ以外は書面でのやり取りとなっている。会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるような努力している。	コロナ禍のため1回のみ開催となり、それ以外は書面でのやり取りとなっている。会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるような努力している。	○運営推進会議は、地元自治会長、民生委員、利用者、家族、職員、管理者のメンバーで構成されていて、これまで、事故対応やコロナ対応で具体的な意見や提案があり、運営に反映させていることを伺いました。昨年度はコロナ禍で1月の1回のみ開催でしたが、活動の様子や事故報告、コロナ対応策等の会議資料を全メンバーに配布しているとの管理者の話がありました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題等があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話や相談を聞いてくれている。	問題等があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話、相談を聞いてくれている。	○甲府市の担当部署とは、管理者が日常的に報告や連絡、相談等で連携を図り、特に家族からの意見や要望については相談やアドバイスを受けて、適切な対応等で共有ができていたとの管理者の話がありました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体と事業所内で各1回、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置しており、3ヶ月に1回、委員会を開催し、話し合われた内容は会議にて職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	法人全体と事業所内で各1回、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置しており、3ヶ月に1回、委員会を開催し、話し合われた内容は会議にて職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	○身体拘束マニュアルに基づいて、身体拘束委員会が3か月に1回開催されています。拘束事例等の勉強会が実施され、特にスピーチロックについては、日常的な職員の言動を事例として取り上げ、適切な言動の実践を職員全員で共有する取り組みがあります。また、法人の身体拘束に関する研修会も年1回開催されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人一人の尊厳を大切に、声掛け一つでも虐待につながる恐れがある事を意識しながら介護にあたっている。職員同士でも不適切な介護がなかったか、声かけがきつくなかった等指摘し合い、丁寧な言葉使いをするように心がけている。	利用者一人一人の尊厳を大切に、声掛け一つでも虐待につながる恐れがある事を意識しながら介護にあたっている。職員同士でも不適切な介護がなかったか、声かけがきつくなかった等指摘し合い、丁寧な言葉使いをするように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用していた方がおり、関わりを通して理解を深める事が出来ている。利用者様が可能な限り自己決定できるよう努め、その人らしい生活が送れるよう支援している。	成年後見人を利用していた方がおり、関わりを通して理解を深める事が出来ている。利用者様が可能な限り自己決定できるよう努め、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応をしている。	契約時には十分な時間をとり、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している他、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。施設の行事の際には、ご家族も出席いただき日頃の様子を見てもらう機会にしている。	意見箱を設置している他、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。施設の行事の際には、ご家族も出席いただき日頃の様子を見てもらう機会にしている。	○家族会、利用者はありませんが、運営推進会議や意見箱等で家族や利用者の意見、要望を把握し、職員会議に報告し、行事、個別外出行事、献立メニュー等に反映させていることを管理者から伺いました。コロナ禍においては、広報誌(ほのほの便り)を毎月家族にも配布し、面会時や電話連絡等で家族の意見や要望の把握に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。今年度は職員の意見で運動会を実施している。	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。今年度は職員の意見で運動会を実施している。	○管理者は、年1回職員の個別面談を実施し、また、職員会議や日常の話し合いの中で意見や要望、提案を積極的に汲み取り、運営に反映させるように努めていることを伺いました。これまで、職員の提案により、趣味活動(書道、手芸等)や運動会の行事を実施しているとのことです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が認められる職場の環境作りに留意している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。資格取得のための勉強等での休みも考慮し、学ぶ意欲のある職員を職場全体で応援している。	職員の努力が認められる職場の環境作りに留意している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。資格取得のための勉強等での休みも考慮し、学ぶ意欲のある職員を職場全体で応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の法人の研修や月に1回の職員研修を実施し、知識や技術の向上の機会を提供。参加できない職員には、資料を持ち帰り読んでもらい知識の共有を図っている。社外研修も勤務にて行けるよう配慮している。	年5回の法人の研修や月に1回の職員研修を実施し、知識や技術の向上の機会を提供。参加できない職員には、資料を持ち帰り読んでもらい知識の共有を図っている。社外研修も勤務にて行けるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は可能な限り自宅で面談を実施し、安心できる環境でご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。	入居前は可能な限り自宅で面談を実施し、安心できる環境でご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。入居に馴染めるか不安がある方には、何度か家族の方と一緒に飲みに来ていただく等の対応も行い、安心して入居が出来るよう配慮している。	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。入居に馴染めるか不安がある方には、何度か家族の方と一緒に飲みに来ていただく等の対応も行い、安心して入居が出来るよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。法人内でサービスがない場合も、可能な範囲で情報を提供を行っている。	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。法人内でサービスがない場合も、可能な範囲で情報を提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、朝は掃除や洗濯干しから始まり、食事の準備や後片付けなど利用者様と職員と一緒に、同じ時を共有することで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築けるように努力をしている。	家庭的な雰囲気の中で、朝は掃除や洗濯干しから始まり、食事の準備や後片付けなど利用者様と職員と一緒に、同じ時を共有することで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築けるように努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状 態等を連絡したり、毎月施設新聞をお送りして利用者 様の様子をお伝えしている。コロナ渦でも可能な限り 工夫しながら面会を継続し、利用者様とご家族の関係 が維持でき、共に安心できる環境作りに取り組んでい る。	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状 態等を連絡したり、毎月施設新聞をお送りして利用者 様の様子をお伝えしている。コロナ渦でも可能な限り 工夫しながら面会を継続し、利用者様とご家族の関係 が維持でき、共に安心できる環境作りに取り組んでい る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は、ご家族対応にてお墓詣り、法事などに出かけ られたり、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場 所などを、個別外出などで訪れていた。入居後も今までの人 間関係が続けられるよう面会の受け入れや自宅への外出な ど行っている。	コロナ前は、ご家族対応にてお墓詣り、法事などに出かけ られたり、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場 所などを、個別外出などで訪れていた。入居後も今までの人 間関係が続けられるよう面会の受け入れや自宅への外出な ど行っている。	○家族の協力により、法事やお墓参りにはできるだけ 参列できるように配慮しています。利用者から「家に帰 りたい」との訴えについても家族に依頼して、短時間、 家の近くまで出かける等の工夫をしています。コロナ禍 での外出制限や県外の利用者も増えてきて、関わりの 継続が困難になってきているとの管理者コメントがあり ました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士で助け合いながら家 事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係 が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間 に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、希望のお やつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、良い 関係を築くようにしている。	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士で助け合いながら家 事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係 が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間 に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、希望のお やつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、良い 関係を築くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時よりグループホームにいられない状況になった 場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後 も、相談事や不安点をお聞きしている。別の施設に移 る事になった際も情報を提供し、ケアが途切れないよ うに支援している。	契約時よりグループホームにいられない状況になった 場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後 も、相談事や不安点をお聞きしている。別の施設に移 る事になった際も情報を提供し、ケアが途切れないよ うに支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認 するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いを くみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な 場合には、ご家族にも協力して頂いたり、利用者様の笑顔 を引き出せるよう支援している。	ケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認 するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いを くみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な 場合には、ご家族にも協力して頂いたり、利用者様の笑顔 を引き出せるよう支援している。	○ケアマネジャーは、利用開始時のアセスメント書式に より利用者個々の聞き取り調査を介護計画に反映させ ています。同様に計画更新時のモニタリングを適切に実 施することや職員、家族アンケート調査等で情報を把握 する中で、利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り ケアプランにも反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴 染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に記入 していただいたものを参考に介護に取り入れている。 また、ご本人からふとした時に出た言葉なども大切に 介護にあたっている。	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴 染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に記入 していただいたものを参考に介護に取り入れている。 また、ご本人からふとした時に出た言葉なども大切に 介護にあたっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一 日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供し ている。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維 持するように努めている。活動には利用者の意思を尊 重して参加していただいている。	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一 日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供し ている。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維 持するように努めている。活動には利用者の意思を尊 重して参加していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出 された意見はケアに取り入れている。定期的なモニタ リングやアセスメントを行い、現状や課題の見直しを 行っている。その際、ご家族にはアンケートを記入して いただき、プランに反映している。	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出 された意見はケアに取り入れている。定期的なモニタ リングやアセスメントを行い、現状や課題の見直しを 行っている。その際、ご家族にはアンケートを記入して いただき、プランに反映している。	○介護計画策定は、ケアマネジャーによるアセスメン ト一計画案一家族アンケート調査一全体会議一利用 者・家族確認一計画策定一モニタリングのPDCAサイク ルで適切に行う仕組みになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々のケアのみでなく、利用者様の様子 や発した言葉など細かく記入するようにしている。職員 は記録だけでなく、普段から職員間で些細なことでも 話し合い、継続してケアが行えるようにしている。	介護記録に日々のケアのみでなく、利用者様の様子 や発した言葉など細かく記入するようにしている。職員 は記録だけでなく、普段から職員間で些細なことでも 話し合い、継続してケアが行えるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	活動へは利用者様の意思にて参加していただいている。落ち着かない方には他ユニットで過ごしていただく、散歩やドライブなどで気分転換が図れるよう支援している。コロナ前には個別外出等も取り入れたり、希望者は自宅への外出や買い物等も個別に対応している。	活動へは利用者様の意思にて参加していただいている。落ち着かない方には他ユニットで過ごしていただく、散歩やドライブなどで気分転換が図れるよう支援している。コロナ前には個別外出等も取り入れたり、希望者は自宅への外出や買い物等も個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前はギター演奏の慰問があった。また、近くの延命地蔵は地域の憩いの場となっており、散歩で行くと地域の方から声をかけて頂くことも多い。	コロナ前はギター演奏の慰問があった。また、近くの延命地蔵は地域の憩いの場となっており、散歩で行くと地域の方から声をかけて頂くことも多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点は書面にて医師に渡していただくなどの支援をしている。	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点は書面にて医師に渡していただくなどの支援をしている。	○入所時に利用者・家族に事業所の協力医療機関の情報も提供する中で、かかりつけ医の選択決定をいただいています。現在2ユニット14名の内12名が協力医療機関を受診しているとのことです。協力医療機関の法人クリニックには平均月1回の通院受診があり、通院付き添いは家族にお願いしているができるだけ職員も一緒に同行しています。歯科医が月1回往診して利用者の口腔ケア等の支援体制もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、変化時には介護記録に記載すると共に、管理者に報告、相談し、受診につなげている。	介護職員は、変化時には介護記録に記載すると共に、管理者に報告、相談し、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設で出来る事と出来ない事を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設で出来る事と出来ない事を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	○重度化や終末期の対応マニュアルにより、利用開始時及びその後の状態変化に伴い、その都度利用者・家族に説明し、適切に対応する仕組みになっています。これまで終末期段階になると、特に家族からの希望で医療機関へと移る利用者が多く、事業所で看取った事例はほとんどないとの管理者のコメントでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。地域の防災訓練にも利用者様と参加している。	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。地域の防災訓練にも利用者様と参加している。	○防災計画にもとづいて、本年度は4回避難訓練を実施しています。事業所の2階ユニットが一時避難場所になっており災害用非常備蓄品等も整備されています。また、地域の防災訓練には利用者・職員が参加して、地域住民との連携に努めています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が歩んできた人生や大切な物、思いを尊重したケアを心がけている。介助の際も尊敬、プライバシーを傷つけないよう丁寧な声かけを心がけている。	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉でもプライバシー、尊敬を傷つける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	○プライバシー保護規定が整備され、トイレ・入浴時の羞恥心への配慮等に努めています。特にスピーチロックについては、標準的実施方法を全職員が周知共有するための取り組みを図り、一人ひとりの利用者の行動を抑制する言動をなくすことや尊敬を大切にすることに努めていることを管理者から伺いました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によってやる事を利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。	その日によってやる事を利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに応じた服選びを支援し、行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行った折には、自身で洋服を選んで買って頂くなど楽しむ機会となっている。	TPOに応じた服選びを支援し、行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行った折には、自身で洋服を選んで買って頂くなど楽しむ機会となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しさを共有している。	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しさを共有している。	○献立メニューは、法人の4グループホームが当番制で作成していますが、週2回(火曜日、金曜日)の献立については、利用者の希望を反映させています。利用者も野菜の下ごしらえ、味見、盛り付け等の役割を職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせて口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。希望にて訪問歯科の定期検診や歯のクリーニングも行っている。	毎食後個人に合わせて口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。希望にて訪問歯科の定期検診や歯のクリーニングも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせて、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。排泄の状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、パットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	個人の排泄パターンに合わせて、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。排泄の状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、パットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	○排せつの自立支援については、排せつチェックシートを活用して、声掛けや誘導を基本とした自立支援に努めています。現在、オムツ使用者は両ユニットで夜間帯1名のみと伺いました。各ユニットともに男性利用者、女性利用者が居るために職員配置も男性、女性スタッフを配置し、同性介護に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、朝食後は長くトイレに座っていただく、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらうよう声掛けを行っている。	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、朝食後は長くトイレに座っていただく、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらうよう声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	○事業所として入浴日時は特に設けては無く、利用者の希望に応じて対応していますが、現在は週に2~3回午前、午後の利用が多いようです。浴槽は全て個室で一人の利用者に職員1~2名で対応しています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いて情報共有している。	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にいき、自分の役割と認めて頂けるように努力している。	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にいき、自分の役割と認めて頂けるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であっても、花見や紅葉狩りなどドライブではあるが外出の機会を確保している他、延命地蔵まで散歩に出かけたり、施設の庭でお茶をするなど外へ出る機会を大切にしている。	コロナ禍であっても、花見や紅葉狩りなどドライブではあるが外出の機会を確保している他、延命地蔵まで散歩に出かけたり、施設の庭でお茶をするなど外へ出る機会を大切にしている。	○コロナ禍でも、これまでの外出活動を制限しないように、時間や場所の配慮工夫等、感染対策をして、買い物や散歩、ドライブ、お花見や紅葉狩りをできるだけ実施しています。また、利用者の気分転換を図るために事業所の庭でお茶会も行う等の工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をし清潔を保ち、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をし清潔を保ち、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	○1階ユニット、2階ユニットの共有スペースは、共に整備され、テーブルやソファが置かれています。利用者が寛げる落ち着いた空間になっていて、毎朝利用者と職員が掃除をして清潔に努めています。壁には利用者が製作した、ちぎり絵や吊るしびなが飾られ、誕生会行事は、両ユニットで一緒にいき、利用者交流を深める工夫もありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思と一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思と一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	○居室は共有フロアに面していて、利用者の移動や安全面への配慮工夫がされています。居室内のベッド、家具等の配置も利用者・家族の希望を取り入れ、利用者一人ひとりが自由にくつろげる居室環境に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができた、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができた、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。		